

平成21年度全国学力・学習状況調査について

H21.8.27 秋田県教育委員会

概 観

- 3年連続しておおむね良好な状況にあるという結果を得たことは、本県の教育的土壌が効果的で安定していることの証であるにとらえている。
 - ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣←「わか杉っ子 学びの十か条」
 - ・各学校における授業改善の努力と一人一人へのきめ細かな指導
 - ・家庭や地域の教育力と協力
 - ・大学との協力関係
- 県教育委員会では、学校教育共通実践課題として「ふるさと教育」を実践するとともに、分かる授業・魅力ある授業の創造を目指し学力向上推進事業を進めてきた。この3年間の調査結果により、これまで歩んできた方向性や施策・事業等の有効性について、一定の評価をしている。
- 個別にデータをみると課題もある。今後、検証改善委員会を設置するなど詳細な分析を進め、「昨年度までの課題の改善状況」「今年度の調査から明らかになった課題」等について検討し、教育における継続的な検証改善サイクルの確立に努めていきたい。
- 教育の充実のためには、本県の財産であるこの教育的土壌を大切にし、県民に一層教育に対する関心をもっていただき、協力いただくことが肝要である。今回の調査結果を県民と共有し「教育立県あきた」の実現に向けて取り組んでいきたい。

調査結果の活用

- 本調査を受けた児童生徒に対しては、年度末までに課題となっている部分について確実に改善させた上で進学・進級させることが大切である。既に各学校では、調査実施後直ちに自校で採点するなど、課題を明らかにしてその改善のために取り組んでいるところである。今回、調査結果の提供を受け、自校の状況を客観的に分析し、9月以降、改善のための方策を一層明確にして取り組むことになる。12月に実施する県の学習状況調査は課題の改善状況を把握する機会となる。改善が見られない場合には3月末に再度課題の改善を見届けるといふ、年間を通した継続的な検証改善のサイクルを確立する必要がある。
- 本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないということには配慮する必要がある。しかしながら、教育活動の改善のための情報が豊富に提供されているということは否定できない事実であり、有益な情報については、各学校、各市町村教育委員会で共有していくことが必要である。県教育委員会としても、今後、調査結果を詳細に分析するとともに、課題解決につながる情報の提供に努めていく予定である。

教科に関する調査の結果

◆ 概 要

- 全国の平均正答率を、小・中学校とも各教科で5ポイント以上上回っており、おおむね良好な状況である。
- 課題として取り組んできたB問題については、平均正答率で全国の状況を大きく上回る傾向にあり、知識・技能等の活用に重点を置いた授業改善が徐々に進んできていると判断できる。
- 標準偏差は全国の状況よりも小さく、県内の児童生徒の成績のバラツキが少ない傾向である。
- 正答数分布は、全国に比べ正答率の高い層が厚く、反対に正答率の低い層は薄くなっている。
- 無解答率は、国語、算数・数学ともにすべての問題で全国より低い。
- 一部、全国の平均正答率を下まわる問題があり、早急に改善する必要がある。

小学校 6 年生平均正答率

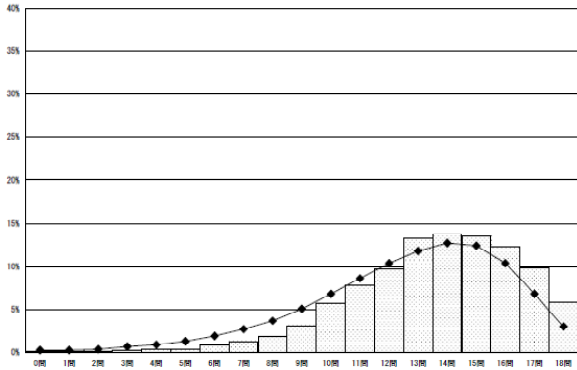
() 内は全国平均正答率との差

教 科	H 2 1	H 2 0	H 1 9
国 語 A (知識)	75.3 (+5.4)	74.4 (+9.0)	86.1 (+4.4)
国 語 B (活用)	60.4 (+9.9)	62.9 (+12.4)	69.0 (+7.0)
算 数 A (知識)	86.2 (+7.5)	80.7 (+8.5)	88.4 (+6.3)
算 数 B (活用)	63.7 (+8.9)	58.9 (+7.3)	68.6 (+5.0)

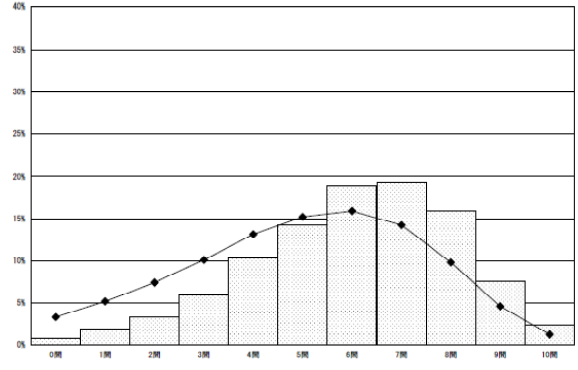
中学校 3 年生平均正答率

教 科	H 2 1	H 2 0	H 1 9
国 語 A (知識)	82.3 (+5.3)	78.6 (+5.0)	85.4 (+3.8)
国 語 B (活用)	81.8 (+7.3)	66.8 (+6.0)	77.0 (+5.0)
数 学 A (知識)	68.8 (+6.1)	70.1 (+7.0)	77.5 (+5.6)
数 学 B (活用)	63.4 (+6.5)	54.7 (+5.5)	65.3 (+4.7)

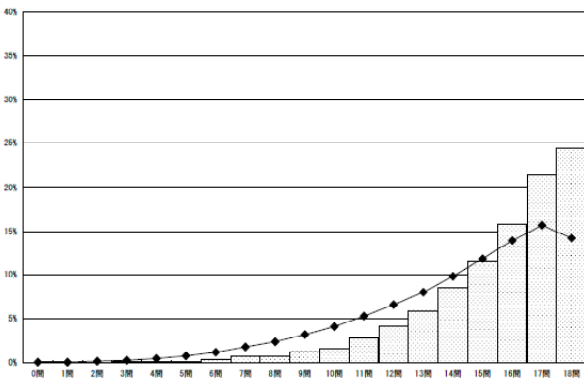
正答数ごとの分布（棒グラフ：秋田県
 <小学校国語A>



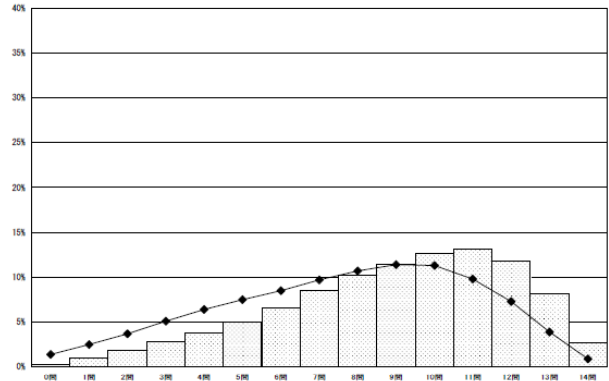
折れ線グラフ：全国
 <小学校国語B>



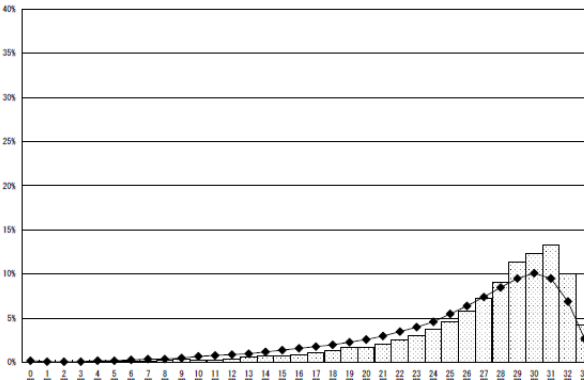
<小学校算数A>



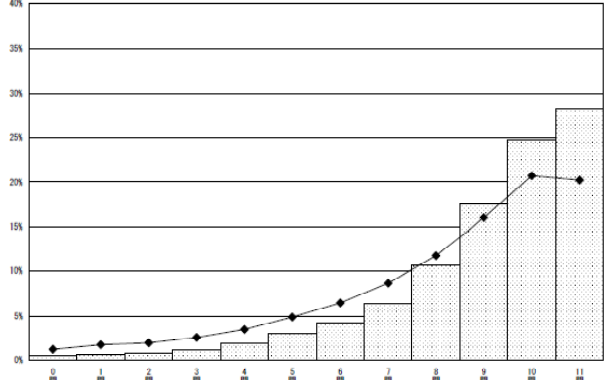
<小学校算数B>



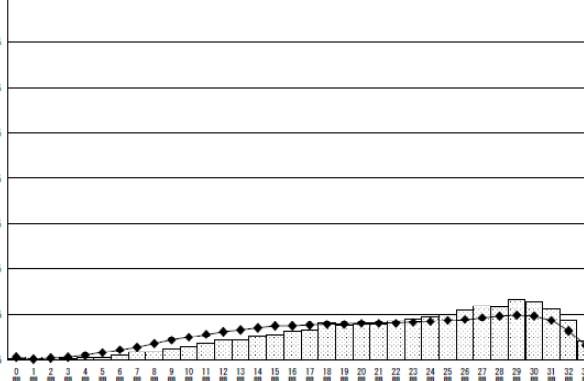
<中学校国語A>



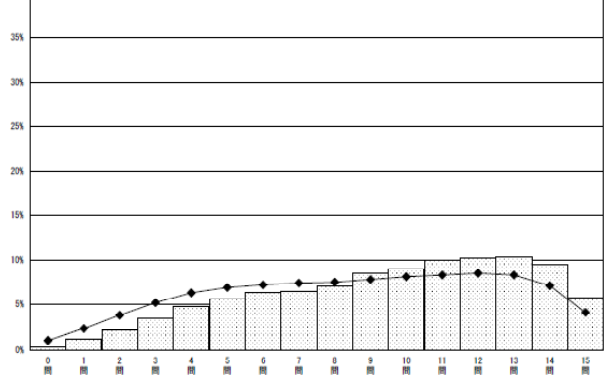
<中学校国語B>



<中学校数学A>



<中学校数学B>



各教科の成果と課題

【国語】

- 全国平均との差はA問題よりB問題で大きい。
- 無解答率はすべての問題で全国を下回っている。
- 小学校ではローマ字、中学校では同音異義語等、言語事項に課題がある。

●課題の例

	問題番号	平均正答率		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 5	62.2	58.7	文章の表現の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	文学的な文章の表現の工夫をとらえる
	B 1一	19.8	11.4	報告文を読み、メモの中に調べた内容の一つめを書く	調べる内容を見通して、必要な事柄を整理する
	B 2二	35.2	25.7	「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する	自分の立場や意図を明確にして話し合う
中 学 校	B 1三ア	74.7	59.1	子ども図書館案内図の工夫を生かして、学校図書館の案内図の郷土資料コーナーの見出しを書く	資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる
	B 2三	74.0	64.0	資料の図が、文章のどの部分を補足しているかについて、文章中から抜き出す	文章と補助資料とのかかわりを理解する

【算数・数学】

- 3年間の経年比較から、B問題について全国平均との差が広がっており、「活用」に係る力がついてきている。
- 無解答率はすべての問題で全国を下回っている。
- 小学校では百分率の意味理解、中学校では等式変形に課題がある。

●課題の例

	問題番号	平均正答率		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 2(1)	67.0	64.1	数直線上に示された1万より大きい数を読み取る	数直線から数を読み取ることができる
	A 7	62.4	56.9	200人のうち80人が女子のとき、女子の人数の割合は全体の何%か選ぶ	百分率を求めることができる
	B 5(3)	26.2	17.1	4月と6月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの割合の大小関係をとらえ、判断のわけを書く	基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述することができる
中 学 校	A 2(4)	52.2	44.5	等式 $S = 1/2 ah$ を a について解く	具体的な場面で、等式を目的に応じて変形することができる
	A 8	28.2	28.9	三角形の内角の和が 180° であることの証明について正しいものを選ぶ	証明の意義について理解している
	B 3(3)	26.9	19.1	蛍光灯と白熱電球の総費用について、2つの総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

児童生徒質問紙調査の結果

◆ 概 要

○生活習慣、学習習慣など、平成19年度からの3年間は全体として望ましい習慣が安定して続いている。いくつか課題は見られるものの、質問の9割程度の項目で全国平均を上回っている。
○平成21年度に新たに追加された授業に係る項目から、本県の授業スタイルは、児童生徒主体であることが明らかになった。

本県の結果と全国との差（「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な回答）

	上回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
生活習慣	普段（月～金曜日）、何時ごろに起きますか。	(7時より前に起きる) 91.8	+15.3	(7時より前に起きる) 83.0	+17.3
	普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか。	(10時より前に寝る) 53.8	+10.5	(11時より前に寝る) 38.9	+ 7.1
	家の人と普段、朝食を一緒に食べている。	67.2	+ 5.0	54.3	+12.0
	携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	97.2	(持っていないを含む) + 3.1	90.1	+10.3
学習習慣	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。	24.7	(2時間以上) + 1.9	52.0	+14.9
	家で学校の授業の予習をしていますか。	54.2	+16.7	36.7	+ 7.2
	家で学校の授業の復習をしていますか。	83.2	+37.2	71.1	+30.6
	家で苦手な教科の勉強をしていますか。	70.8	+22.9	63.0	+21.3
授業	普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思いますか。(新項目)	84.4	+ 5.1	82.7	+13.1
	普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。(新項目)	83.0	+ 7.4	72.3	+19.6
	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。(新項目)	69.9	+13.9	57.9	+16.1
	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	74.4	+10.4	39.2	+ 4.9
他	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	78.1	+15.7	46.3	+ 8.5

	下回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
	家の手伝いをしていますか。	75.5	- 3.0	57.7	- 5.3

学校質問紙調査の結果

◆ 概要

- 文部科学省の報告では、一斉読書と平均無解答率には相関関係があるとされた。本県では9割以上の学校が一斉読書に取り組んでおり、無解答率は、国語、算数・数学ともにすべての問題で全国平均を下回っている。
- 放課後や長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施している割合が高い。家庭学習の課題の与え方については、学校全体で組織的に取り組んでいる。
- 調査結果を学校の指導計画作成や授業改善に積極的に活用している。
- 各学校では、保護者や地域の人たちに対して調査結果の公表・説明はもちろん、授業参観等を含めた学校公開にも積極的で、開かれた学校づくりに取り組んでいる。
- 教職員以外のいわゆる学校司書等の配置率が低く、計画的な学校図書館の利用も低い。

本県の結果と全国との差（「よく行った」「どちらかといえばよく行った」など肯定的な回答）

上回っている主な項目		小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
学 力 向 上	「朝読書」などの一斉読書の時間を設けていますか。	97.7	+ 8.1	91.8	+12.6
	放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していますか。	61.4	+12.6	64.1	+16.9
	長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施していますか。	35.8	+10.6	72.5	+12.3
	国語の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の職員で共通理解を図っていますか。	93.8	+17.8	85.8	+15.3
	算数・数学の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。	94.6	+19.0	87.3	+16.6
調 査 結 果 の 活 用	平成19・20年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で活用しましたか。	96.9	+13.4	90.3	+11.6
	平成19・20年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか。	95.3	+35.5	86.6	+35.8
	学校の指導計画や取組を検討するにあたり、平成19・20年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか。	96.9	+12.3	91.0	+10.2
開 か れ た 学 校	平成20年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。	95.7	+23.6	88.8	+20.7
	地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか。	95.7	+13.8	88.1	+10.9

下回っている主な項目		小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
教員以外の職員で学校図書館に関する事務を担当する（いわゆる「学校司書」など）が置かれていますか。		13.2	-26.3	18.6	-21.1
学校図書館を活用した授業を計画的に行っていますか。		68.1	- 9.7	49.3	+ 1.7

クロス集計より

○児童生徒質問紙、学校質問紙等において、教科の正答率と相関のある質問項目で本県の実績はおおむね良好である。

●一部の質問項目でさらに改善が望まれるものや地域間の差がある。
(詳細については、今後、検証改善委員会等で分析を進める)

(文部科学省のクロス集計より)

○児童生徒質問紙：次のような項目等で教科の正答率との相関がみられる。

- ・【国語の学習の仕方】、【算数・数学の学習の仕方】、【ノートの利用】、【家庭学習、宿題】、【読書】、【携帯電話】、【基本的な生活習慣】、【家庭でのコミュニケーション】

○学校質問紙：次のような項目等で教科の正答率との相関がみられる。

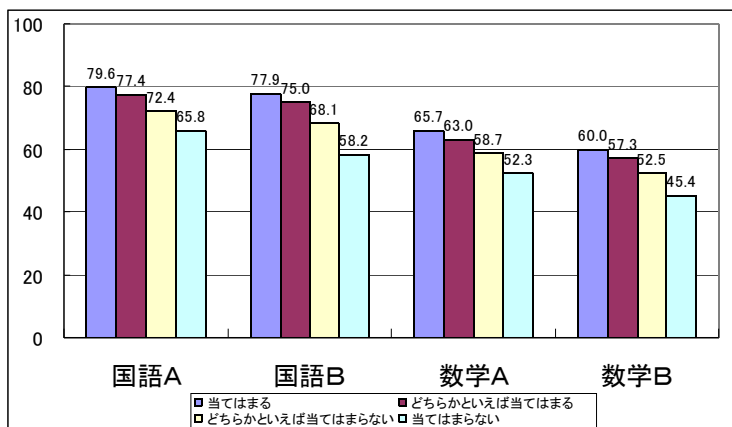
- ・【国語の授業】、【算数・数学】、【PTA・地域の協力】

○その他次のような相関がみられる

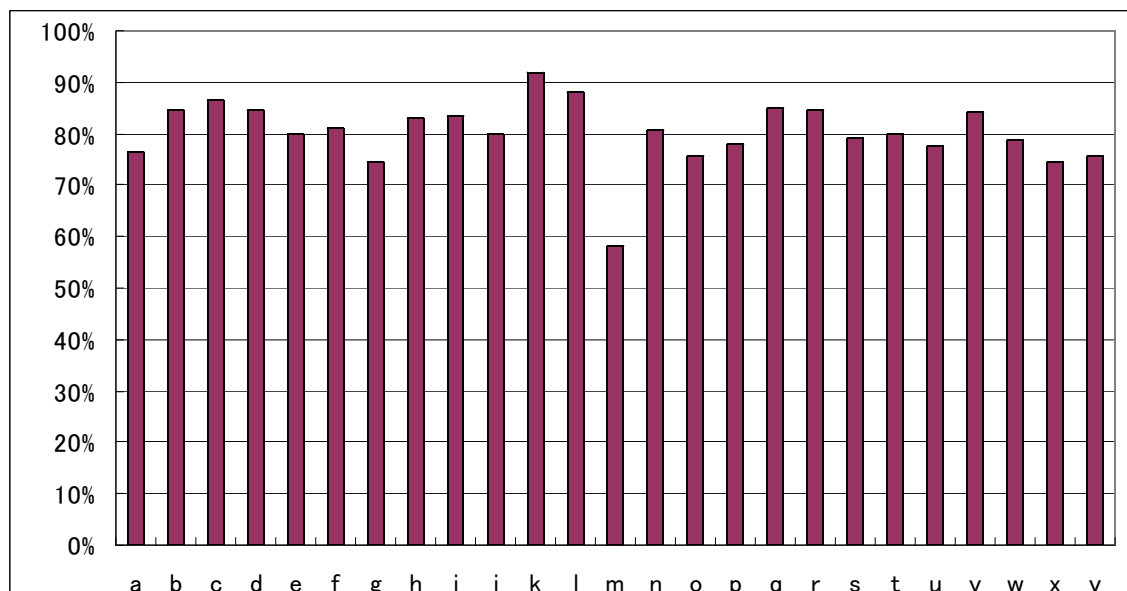
- ・指導方法において、書かせること — 記述式問題の平均無解答率
- ・朝読書などの一斉読書の時間 — 記述式問題の平均無解答率
- ・学校司書の配置 — 学校図書館の利用状況

例 中学校生徒質問紙 質問49：授業では、ノートを丁寧に書いていますか

<全国：回答類型別平均正答率>



<秋田県：市町村別回答状況> ※「当てはまる」「どちらか」として「当てはまる」の割合 (市町村の並びは無作為)



県教育委員会の取り組みについて

◆ これまでの学力向上関連事業等

- 少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）（H13～）
- 学習状況調査（H14～）
- 算数・数学学力向上推進事業（H17～）
- 教育専門監の配置（H17～、義務教育課はH18～）
- 学校教育の活性化に係るアンケート（H10～H19）
- 科学する心を育む夢プラン事業（H12～）
- 「英語とコンピュータが使える秋田の子ども」育成事業（H16～）
- 学校・大学パートナーシップ事業（H17～19）

◆ 昨年度の主な取り組み

- 夢創造！！チャレンジ推進事業（H20～）
- 読解力向上のための指針の作成（H20～）
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条（H20～）
- 「わか杉思考コンテスト」の実施（H20～）
- 秋田わか杉っ子 学び充実事業（H20～）
 - ①検証改善委員会…全国学力・学習状況調査の結果分析と提言
 - ②学力向上県民フォーラムの開催

◆ 今年度の新規事業

- 「小学校まなび・ふれあい充実事業」（H21～）
 - ・普通学級を6～7学級有し、かつ学級担任以外の教諭が配置されていない11の小規模小学校（推進校）に講師（臨時）を配置し、自由度の高い学校運営や教育課程の編成を可能とする。
 - [学習指導面]得意分野を生かした指導の充実
 - [生徒指導面]子どもと向き合う時間の拡充と複数の目による指導の充実
- 「先端科学体験事業」（H21～）
 - ・児童生徒の夢や希望を育むとともに、理数系教科の学習意欲の向上を図り、理数系分野への進路について関心を高める。
 - ・科学技術の最先端で技術開発している国内企業や大学研究室への体験訪問及びノーベル賞受賞者などの講演会を実施する。
- 「チェンジあきた・教育プロジェクト事業（あきた教育GP）」（H21～）
 - ・秋田の将来を担う人材の育成
 - ・小・中学校の特色ある教育プロジェクトの提案に対する財政補助